



さん が

第 七 三 号

平成 二 四 年

西 曆 二 〇 一 二 年

春 彼 岸 三 月 号

曹 洞 宗 東 運 寺

京 都 市 伏 見 区 淀 新 町 六 一 八 一

TEL 〇 七 五 一 六 三 一 一 二 七 二 一

FAX 六 三 二 一 五 七 二 五

E-MAIL sanga@tonji.net

東日本大震災が起きてから、まもなく一年がたとうとしています。

いまだ行方不明の方も多く、復興の道のはなかなか遠いと言わざるをえないでしょう。なんととっても、放射能もれ事故による被害に、私たちはどう向かっていけばいいのか、途方に暮れてしまうことがあるのだろうかと思えます。

昨年暮れ、お二人の女性が訪ねてこられました。どちらも福島の方で、京都に自主避難されたとのこと。地震そのときの生々しいお話しや、心揺れながらも京都まで来られた経緯などをうかがいました。

また、ある被災された女性が書かれた文章を、読む機会もありました。

そこでは、たとえば、朝起きて窓を開けて深呼吸する習慣がなくなり、洗濯物を外に干せなくなる毎日のこと。

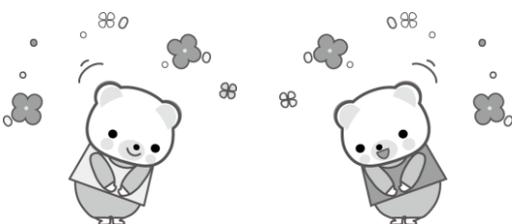
何も言わなくても、線量計とマスクを身につけて外出する六歳の娘の姿に胸が痛み、将来結婚できるかが、今から心配になってしまうこと。

明日にはこの家を遠く離れるかもしれない、と毎晩考へ、それでも明日もこの家で暮らせますように、と毎晩祈ること。

などなど、切実な思いを吐露されていました。

まさに日本は、たいへんな問題を抱えてしまったのだな・・・とあらためて感じます。

被災した人も被災しなかった人も、これ以上、つらい思いをすることがなく、安心して暮らせるようになるためにはどうすれば良いのか。日本が試されているようにも思えます。



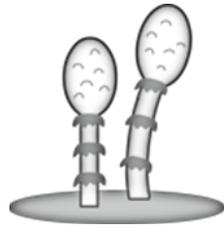
晋山式（しんさんしき）を行います

住職が交代して二年あまりになり、このたび、住職就任の正式な儀式である「晋山式」を、

来年五月二十六日（日）にさせていただきますことになりました。

東堂（先代住職）が行った昭和三六年以来、およそ五十年ぶりのお祝い法要です。くわしくはあらためてご案内いたしますが、この減多にない行事に直接ふれていただけますようお願いしております。

護持会費納入のお願い



護持会費の領収証があたりしくなりました。

昨年度までは、一年を十回に分けての押印でした。

今年度からは、一年を二回に分けての押印となります。

会費は変わらず、年間一口一万円です。

このお便りに、あたらしい領収証を同封しております。すでに頂戴した方にはハンコを押してあります。ご不明な点があれば遠慮なくご連絡ください。

お墓で溝工事をいたしました

ご承知のように、お寺の墓地周囲には竹やぶがあります。目隠しにもなって具合はいいのですが、竹の強烈な生命力に悩まされることもあります。たとえば、竹の根が墓地に入り込み、お墓の前からタケノコが生えてきたり、お墓を倒したりしてしまうおそれもあります。それらを未然に防ぐため、庭師さんのアイデアもあって、墓地とやぶの間に溝を掘りました。



工事は二日間にわたり、ショベルカーで溝を掘り、竹の根をていねいに取り除いていただきました。

墓地の縁には、けっこう地面が崩れているところもあって、あわせて土を足して補強してもらいました。このまま地面が固まってくれることを願っています。